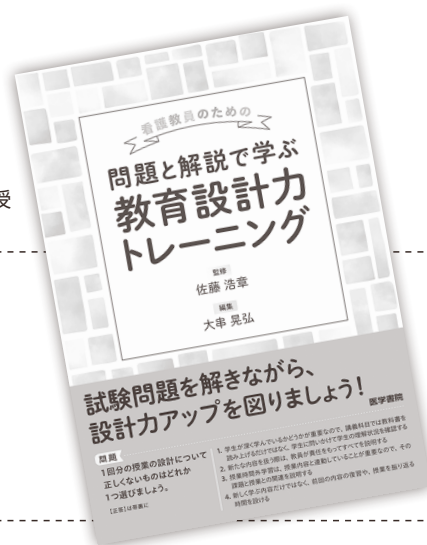


Book Review

評者：前川幸子 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科教授

看護教員のための 問題と解説で学ぶ 教育設計力トレーニング

監修：佐藤 浩章、編集：大串 晃弘、発行：医学書院
定価：2640円（本体2400円＋税10%）



看護教員が教えることを学ぶための門戸を開く書

看護教員は、授業という実践をとおして教育力を培っていく。では、どのようにすれば日々の営みである授業を教育力の向上へとつなげることができるのだろうか。この問いに答えてくれるのが、教育学・看護学の専門家たちの共著によって編み出された本書である。ではその「教育力」とは何を意味するのか。本書によれば、教育力とは教員がよりよい教育を学生に提供するための能力であり、以下の3つの力と定義されている。学修目標に対する学生の到達度を的確に評価するなどの「教育評価力」、講義や演習、実習科目を体系的かつ一貫性を保持して設計する「教育設計力」、学生が効果的・効率的に学修できるかわりといった「教育指導力」である。

そのうち本書で取り上げるのがタイトルにある「教育設計力」だが、なぜ「授業設計」ではなく「教育設計」なのだろう。それは、授業は単独で成立するものではなく、教育というシステムにおいて学生は看護学の学びを経験するからである。担当する授業のみに関心を置くのではなく俯瞰してとらえること、つまり設置主体の理念をふまえた3つのポリシーとどう関連するのか、学習目標の設定や評価方法は妥当か、教育方法は学生の経験に即しているのか、など教育設計における多様な観点からの思索が求められるのである。

本書はⅢ部構成になっていて、第Ⅰ部は教育設計力

を向上させる意義、第Ⅱ部は教育設計をするための基礎知識、第Ⅲ部は具体的な授業場面をとおして教育設計が述べられている。看護教員は、看護師であり教員であるという二重の専門職を有するわけだが、教育用語が簡潔に明示されている第Ⅱ部を目にしたとき、ともするとそれらをあいまいなまま用いていないか、など自問することがあるかもしれない。また教育設計の方法である「プログラム」「科目」「授業」の関係やそれぞれの設計の仕方、とりわけ「授業設計」を知ることで、教育実践を振り返ったり、教育設計の緻密さに感嘆したり、とさまざまな感情が喚起されることもあるだろう。そしてこれらは看護教員が、教えることを学ぶための門戸を開く大切な経験であるように思う。教育設計力は一朝一夕に身につくものではないが、著者らは、常に優しく教育設計力の魅力を説きながらその世界へと誘ってくれる。解説、例示、わからなくなったらどうするか、といった具合に。設問もあるが正答をめざすというよりも、その解説の理解をお勧めしたい。わかりやすく伝える方法を含めて学ぶ機会になる。

最後に、授業という実践は計画通りにはいかない。だからこそ教育実践の醍醐味がある。看護教員が、教育設計力の知識をふまえつつ実践から真摯に学ぶこと、その循環の深まりが教育力の向上へとつながっていくに違いない。